

第14回鎌倉市観光基本計画進行管理委員会会議録

日 時：平成24年3月9日（金）10：30～11：30

場 所：鎌倉市役所 第2委員会室

出席委員：古谷委員長、中根副委員長、鷺尾委員、牧田委員、藤川委員、岩田委員

出席職員：小磯市民経済部長、服部課長、宮下観光振興推進担当課長、小林課長補佐、
渡邊主事

オブザーバー：社団法人鎌倉市観光協会 古田事業係長

傍聴者：なし

議事

- 1 開会あいさつ
- 2 審議事項
第2期鎌倉市観光基本計画の中間見直しについて
- 3 その他
- 4 閉会あいさつ

1、開会あいさつ

2、審議事項 第2期鎌倉市観光基本計画中間見直し

事務局：第2期鎌倉市観光基本計画中間見直し及びパブリックコメントの実施状況について説明を行った。

委員長：最終的に公開されるのは、基本計画の改正文、パブリックコメント及びその回答、変更のポイントの図と表の3点と考えてよいか。

事務局：観光基本計画及びパブリックコメントの2点のみを考えている。

委員長：変更ポイントの図表があった方が理解しやすいので併せて公開した方がよい。

事務局：確かに、図表が添付されていることにより解り易かったというコメントもいただいているので、図表も含めることとする。

委員長：では、お手元のパブリックコメントに基づき、ご意見があればいただきたい。

委員：2ページ目の世界文化遺産の登録についてだが、語尾が「～ですが、」と逆接になっている。「～であり、」と順接の方がいいのではないか。これだと登録自体がネガティブであるような印象を受けてしまう。第一の目的が観光振興ではないということを言いたいのはわかるが。

事務局：パブリックコメントでいただいたコメントの下線ラインを付けたものであるが、表現については工夫する。

委員：イコモス委員によるシンポジウムに参加した際に、鎌倉の良さは文化遺産があることとともに緑の城郭があるこの自然に意義があるとの指摘があった。可能であれば、「文化遺産の保護」に加え「景観」も入れることはできないか。鎌倉が京都・奈良と違う点はこの自然景観の部分であると思う。

事務局：景観そのものは、世界文化遺産そのものにはならないものだが、緑は資産を守るバッファゾーンとして認識されている。そういう意味で含めることに違和感はないと思われる。

委員長：景観は確かに鎌倉観光の重要なポイントなので、どこかで意識させることは必要であろう。

副委員長：「が」であっても、必ずしも相反するといった意味にはならないと思う。実態として登録されれば、観光客が増加する可能性があるということを述べているに過ぎない。量を増やす観光を目指すということではないはずなので、この表現でも違和感はない。

委員：パブリックコメントに対する回答は適切に書いていただいていると評価している。意見の中で経済効果についてコメントされている方がいるが、それとともに大事なポイントである役割分担について計画への書き込みが弱いのではないか。5年前に観光基本計画を策定した際には、経済効果算出への期待は高かったが、どうも足ぶみをしているようで進んでいない。わからないならわからないと書いて、今後の5年間で対応していきますというものもあるのではないか。

委員長：確かに本件は当時かなり論点になっていた。経済効果の算出における国、県、市の役割分担も検討していくべきである。

事務局：28ページのアクションプログラムに本件を追加しているところである。本年

度試みで経済波及効果の調査を行っているところである。来年度は制度設計を行い、その後は本格調査を行うという予定にしている。

委員長：5年おきにやるのか、毎年やるのか。

事務局：入込数や消費額、立ち寄り数を入力することで簡便に経済効果が算出できるようなモデルの構築を目指している。

委員：モバイルなどを活用して様々な統計の取り方ができるものではないかと考える。各組織で行っている対象や内容をマトリクスにして、どこが何をやっているのかということをはっきりとさせるという作業をやっていかないと、いつまでたってもデータの蓄積ができないのではないかと。我々はこういう方面から、では、我々はこちらからというように、テーブルを同じくして調整していく必要がある。

委員長：場の設定は必要であろう。また、県のデータのみならず、民間データも取り入れることが必要である。

事務局：基本的には国の基準を取り入れてやっているが、観光経済を記述する統計手法の国際基準（T S A）までは達していない。問題なのは市の産業構造の把握であると思うので、本格的調査が必要であろう。

副委員長：概算の概算で出せばいいということになりがちである。また、国や県の数字をそのまま流用するというのもありがちで、鎌倉の観光は独自性があるはずなので、そこを意識したものとする必要がある。鎌倉ならではの手法、鎌倉の観光活動を反映したものであることが必要である。

委員：鎌倉の観光において交通渋滞は大きな問題である。方針4で交通渋滞の緩和について、軽く触れられているのみである。世界遺産登録を控え、これ以上の混雑が見込まれているところなのでこれでよいのか。交通政策課ではワークショップを開催したり、解決に力を入れて来ていると思われる。観光客の安全についてだが、防災情報の事前提供が挙げられているが、津波の到達点は多くの鎌倉の観光スポットを含んでいるため、どのように観光客を避難させるということがポイントなのではないか。確かに記述してあるが、もう少し踏み込んだ物言いはできないか。

委員長：交通サイドも観光を意識しているとは思いますが、融和がまだできていない感があ

る。

副委員長：鎌倉の観光の特色は、保護と利用のバランスを両立し、そしてその中に市民生活があるというものである。基本計画の策定自体は量から質という観光を目指すとなかでの具体的手法であるが、他方、総合特区制度で観光客の出入規制を設けるくらいの覚悟が必要である。経済的な側面においても、絶対量が減っても鎌倉らしい質を高める観光を実践するという意識を持つべきである。これは極論だが。

委員：市長の一番の願いは、住民が誇りを持って観光にかかわること。観光、世界遺産、交通の3つは常にリンクしており、いい町にするために、この観光基本計画に世界遺産や交通のことを書いても越権行為にはならないのではないかと。

委員：パブリックコメントで意見が出てくるのが数件というのはよくあることで、これだけの分量のある鎌倉は、やはり市民の意識の違いを感じる。たくさんの市民が基本計画を見てくれていたということに意味があると思う。しかし、世界遺産登録による市民の喜びというものが感じられない。たとえば平泉の時のような。もう少し市民目線による世界遺産の登録のことも書いてあることがいいのでは。トイレのアップグレードは外国人観光客のみを対象とするものならず、増加するであろう国内旅行者、市民も使用することとなるので、もう少し書きぶりに工夫が必要である。

副委員長：世界遺産登録がなされれば、生活空間への影響が出る。一時期、白川郷でも問題になったが、カラフルなのぼりを立てて生活のための商行為を行いたい人もいれば、生活・景観そのものが世界遺産としての価値なので、我慢すべきであるという二者の対立があった。鎌倉においてもそういう問題は提起され得るので、これをどのようにまとめるかだ。

委員：ロードプライシングについても計画内の方針に踏み込んで書くべきではないかと。

委員長：方向性を示せばいいのではないかと思う。防災観光についても部会で対応しているということを書いておくべきなのではないか。

委員：経済効果とシビックプライドについては今後深めていくべきテーマだと思う。

委員長：シンポジウムの機会等を活用して、鎌倉市民の観光に対するプライドを表層化

する機会を設けるとか、経済データも市民みんなで研究して行くというやりかたもあるのではないか。「かまくら大学」みたいな場で、みんなで議論していくということが必要なのではないか。建設的な意見やデータも得られるものと思う。

副委員長：国も地域も、観光の意義というのは経済的な効果しか説得材料がない。確かに一番重要であるが、その他にも鎌倉の観光というものにこれだけ意義があるということを示すいろいろな指標を示すことを今後検討していくべき課題である。

委員：世界遺産登録には世代をつなぐ効果があるのではないか。次世代にこのままの景観を残すためには多少の我慢も必要という説得材料になるのではないか。

委員：世界遺産の関係でワークショップを数回開催している。いらっしゃる方は意識が高く、このような場を拓げていくことは必要である。

委員：交通でやっているワールドカフェを観光分野でもやっていったらいいのではないか。パブリックコメントも意識が高かったのだから。

委員長：部門別にやっていくことは必要だと思うが、市として制度としてやっていただいたらよいかもしれない。中間見直しに反映する意見というものは今日の議論では理念的な話が多かったので取り入れることは難しいかもしれないが。今後のスケジュールはどのようになるか。

事務局：本日のご意見を元に修正を行い、委員長、副委員長にご確認いただき、それを庁内の手続きを経て、今年度中に成案とする予定である。

委員長：事務局から説明があったように、最終的な修正の確認は、私と中根副委員長に一任していただいてよいか。

出席各委員：よろしい（一同了解）。

3、その他

委員から先般、観光ネットワーク構築及び着地型観光商品開発等事業の公募型プロポーザル方式の募集期間が短く不適切との監査委員から指摘のあったことについて、善処してほしいとの発言があった。

4、閉会あいさつ